

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

（市町村名：城陽市）

タイトル	適正な認定調査の実施
------	------------

現状と課題

認定調査における訪問調査票について、市調査員による調査及び事業所による委託調査のいずれについても、全件点検員及び保健師の資格を有する職員による２回の点検作業を行っている。作業において疑義事項が生じた際は、調査員に確認（委託調査の場合は委託先に問合せ）を行い、修正が必要な場合は修正を行い、認定調査の適正化に努めている。

また、調査員のみならず、介護認定に携わる職員は都道府県主催の認定調査員初任者研修を全員受講し、知識の習得に努めている。また、経験年数を積んでいる調査員についても、市内部での研修を全員受講するとともに、定期的に都道府県主催の現任研修を交代で受講（令和２年度からはWEB研修）し、その内容を持ち帰り他の職員と共有することで、全体のスキルアップを図っている。

第９期における具体的な取組

調査票の全件点検作業の実施を継続する。

認定調査員初任者研修について、対象職員全員が受講する。

計画期間中、毎年１回市内部の研修会を全員受講する。

認定調査員現任研修について、平成３０年度に受講しその内容を共有するとともに、令和３年度はWEB研修を調査員全員が受講した。

目標（事業内容、指標等）

目標の評価方法

● 時点

☐ 中間見直しあり

☒ 実績評価のみ

● 評価の方法

担当職員は全件点検作業が実施されているか確認のうえ、次業務である審査会資料作成担当に点検済の調査票を渡すことを徹底する

取組と目標に対する自己評価シート（実績評価）

（市町村名：城陽市）

年度	令和 6 年度
----	---------

実施内容
調査票の全件点検作業を実施した。 市内部の介護認定調査員向けの研修会を全員受講した。 8 期計画期間中において、令和 3 年度に、京都府認定調査員現任研修（W E B 研修）を調査員全員と保健師 1 名とが受講した。また、期間中に新規任用した調査員で研修未受講の者及び人事異動等での新任担当者については、京都府認定調査員初任者研修を全員が受講した。第 9 期計画期間に入ってから同様の取り組みを続けており、人事異動や新規任用で新規に業務に携わる者は全員初任者研修を受講している。
自己評価結果
調査票の全件点検作業の実施により、介護認定の適正化を図ることができ、調査票による認定結果のバラツキを防止した。 各種研修の受講等による職員のスキルアップによる業務効率化に伴い、訪問調査や認定事務に携わる職員の時間外削減を達成している 介護認定に対する不服申立や窓口での苦情が減った。8 期計画期間中、介護認定に対する不服申立件数は 0 件である。第 9 期計画期間の初年度も、不服申立件数は 0 件であった。
課題と対応策
今後、介護認定申請件数が増加していくと見込まれる中、訪問調査員の確保が課題。新規任用による調査員の確保、適切な育成、調査委託先の拡充を通じて申請件数に見合った調査件数の確保に努めているが、結果通知まで 3 0 日以上を要している状況にある。 また、本市においては、高齢者人口は横ばいから減少傾向にあるが 7 5 歳以上の人口は増加傾向にあり、新規申請や区分変更申請の増加、これまで要支援者であった者の状態が変化し要介護者となる等、これまでには見られなかった傾向が現れ始めている。 申請件数が増となっても、調査を適切に実施する、調査票点検を漏らさず素早く行うなど、認定事務を滞りなく実施する体制の構築、業務の見直し、人材育成等を図る。